

古墳時代

人気になった動物は

～現代の人気動物との差は～



群馬県立中央中等教育学校 1年2組3番

岩井 稔恭

群馬県にある多くの古墳から出土した埴輪の中には動物の姿をしたものも多数あります。馬や犬などたくさんの種類があります。しかし、私たちに身近な動物の中の一つであるねこのはにわはないことも知られています。なぜ現在では人にとってとても身近である犬などの動物が、古墳時代では差があったのか調べていきます。



まず古墳時代にいたことがわかっている動物はどのような種類があるでしょう。犬、馬、ねこ、ネズミ、しか、いのしし、ムササビ、猿のような動物がいます。この中で埴輪になっている動物とになっていない動物を分け、表を作り、現在も人気があるかを書いてみます。

なっている	人気	なっていない	人気
犬	大	ねこ	大
馬	中	ネズミ	小
しか	小	ウサギ	大
いのしし	中		
ムササビ			
猿	小		

このように見ると、はにわにならなかったかどうかは、今の動物の人気とは関係のない他の理由があるのではないかと予想できます。そこで、2つの説をたてて考えていこうと思います。

仮説

1. 見ためよりも実用性を重視した。
2. 忠実な動物を選んだ。
3. 埴輪にならなかったものは、権威を表せなかったのではないか。

仮説1

見ためよりも実用性を重視したのではないが、
まず、どんな理由で現代の人がペットを選んでいるのか
まとめてみる。

1	かわいさ
2	忠実かどうか
3	おとなしい
4	いやしになる
5	いっしょに遊びたい



次に、どんな理由で昔の人が動物を選んでいるのかま
めてみる。

1	人間に忠実
2	権威の象徴
3	荷物を運ぶのに便利
4	猟犬などのパートナー

この2つの表の違いから、昔の人が実用性を重視している
ことがわかる。また、2番目の権威の象徴という部分
から、動物は、自分の身分によって持つものかちがったの
ではないかという予想もできる。

次に、埴車輪になっている動物の使われ方について、それぞ
れ、書いてみる。

犬 ... 狩り
しか ... 角加工、加柄、
鷹 ... 狩り
いのしし ... 儀礼的な狩り、
馬 ... 財や富のアピール、輸送や労働
軍事力
鶺鴒 ... 狩り

使われ方をまとめた表を見ると、狩りのときにつかわれている動物が非常に多いことがわかる。

また、しかや馬のように、戦いに関係するものの埴輪もある。

いのししのように、狩りの獲物を表したものもある。

現在は、ほとんどが、ペットとして飼われているので、使われかたにも大きな違いがあることがわかる。

また、いのししの狩りには、儀礼的な意味もあるため、自分達にとって、身近で、大切なものも埴輪になったのではないか。



次にそれぞれ動物の最高時速を比べてみる。

犬	75km	ねこ	44km
馬	88km	ネズミ	10km
しか	60km	ウサギ	72km
いのしし	50km		
猿	55km		

この表からも、埴輪になった動物は、運動能力が高く、狩りや荷物運ぶなどで、利用しやすかったといえるでしょう。それに対し、埴輪にならなかった動物は、運動能力が低く、あまりよく使えなかったのではないかと思います。

仮説 2

人に忠実な動物を選んでいるのではないか

犬とねこの違いとして、すぐ思いつくものというところ、
犬は忠実、ねこは自由というようなものがある。
昔の人は、この違いを大事にしていて、使う動物が
忠実かどうかで選んでいたのではないか。

そこで、それぞれの動物の性格をまとめてみた。

犬、人なつこくて、忠実	ねこ、自由、特定の人ではなく、
馬、おたやかで、信頼関係がきびける	いろいろなお人とつき合う
	ネズミ、おくびょう
	飼い主でもかんでしまうこともある

今回は、特に特徴的な2つを選んだが、これを見ると、やはり忠実かどうかは大きく関係してきていると思う。
これは、このころの動物は、狩りで多く使われていた
ので、忠実ではないといけなからたからではないかと
予想できる。

特に犬は、なつかせるまでにあまり長い時間がかか
らないうえ、一度なついてしまえば、ほぼ一生忠実で
あるということから、重宝されたのではないだろう
か。

しかし、今では、ねこのように自由でいるほうが、
飼うほうも気が楽だという人もいるようなので、
今と昔では価値観が変化していると思う。

仮説3

埴輪にならなかつた動物は、権威を表せなかつたのではないか

そもそも古墳時代では、豪族と一般の人の差が大きかった。豪族たちは、自分の権力を示すために、いろいろなことをした。例えば古墳を造ったり、鏡などの高価な道具を造ったりした。

その中で馬は、権力があり、大和政権からの信用がないといけなかった。なぜなら馬は、軍事力にもなるため、反乱をしやすくなってしまつた。そのため、馬をもっているということは、信用されているということになり、大きな権力を示すことができた。



しかし、ねこや、ねずみ、うさぎなどはそのような効果もない。仮説1のときにもあったように、狩りが得意ではない。そのためあまり重用ではなかつたのかもしれない。

その中で、馬はやはり、荷物を運ぶためや、軍事力にもなるため、そのころの動物の中で一番大切にされていたのだと思う。

このことから、仮説3は、権威が示せなかつたのではなく、実用性がなかつたといったほうが正しい。



まとめ

今回たてた3つの仮説の結果から、一番有力な説は現在の人とちがいで、見ためよりも実用性を重視した
だと思ふ。確かに、今動物は、ペットとして飼われている
が、昔は狩りなど、生活に関わる大切なパートナーで
あったと思ふ。そのため、今ではとても人気な動物で
あるねこがあまり人気ではなかったのだと思ふ。

また、狩りなどで使われていた、犬
や鵜には、鈴がつけられていること
がある。このことから、人々にとっ
て、狩りは重要な仕事であり、
生きるために必要なことだった
と思ふ。そして、そのために使う
動物には、他の動物以上に大事
にされていたのかもかもしれない。



そして、もう一つのまとめは、つ目と似ているが、昔の動物は、狩りなどに多く使われる。そのため、忠実であったり、しっかりとした信頼関係を築くことができな
いといけな
いのではないかと思ふ。

感想

私は、この結果から、今と昔では、物の価値感がとんとん変わっているため、今と少し変わった見方で考えなければいけないのではないかと考えた。これは動物に関する事だけでなく、鏡のような道具にもあてはまると思ふ。今と昔で異なるものを調べていきたい。

文南大

- 東京国立博物館

<https://www.tnm.jp/modules/rblog/index.php/1/2012/09/12/>

。 富田林市公式ウェブサイト

<https://www.city.todabayashi.lg.jp/site/bunkazai/2611.html>

。 平成28年度考古学セミナー

<https://www.pref.kanagawa.jp/documents/8040/886982.pdf>